

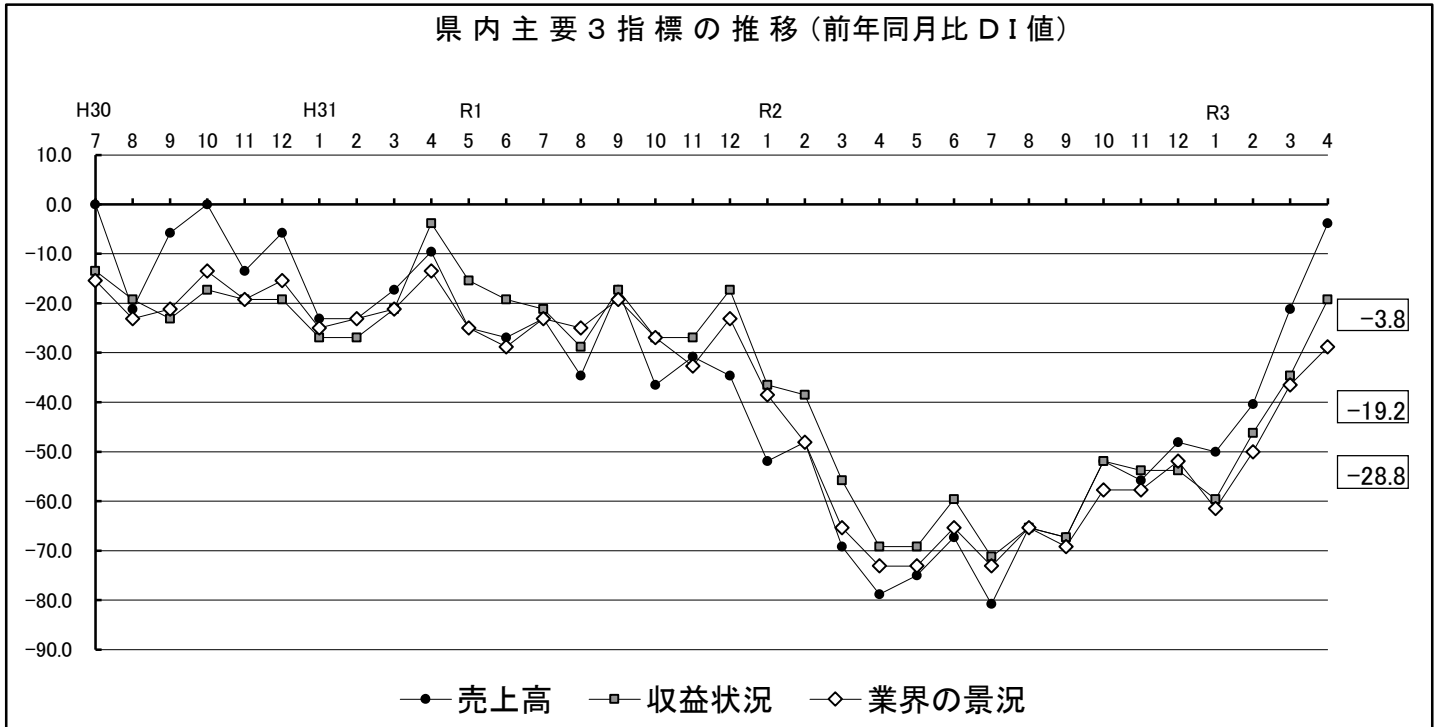
中小企業団体情報連絡員報告結果(令和3年4月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員52名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要3指標全てが上昇。3ヶ月連続で回復傾向にあるが、先行きの見通しは依然として厳しい。
- 製造業で「印刷」「鉄鋼・金属」、非製造業で「小売業(飲食業)」「建設業」で特に厳しい状況。
- 3ヶ月連続での改善もあくまで前年同月比によるもの、コロナ前の水準にはほど遠いとの見方が強い。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	-3.8	17.4	-13.7	16.1
収益状況	-19.2	15.4	-29.1	9.4
業界の景況	-28.8	7.7	-33.5	8.0

売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より17.4ポイント上昇し、-3.8ポイントとなった。全国においては、前月より16.1ポイント上昇し、-13.7ポイントとなった。

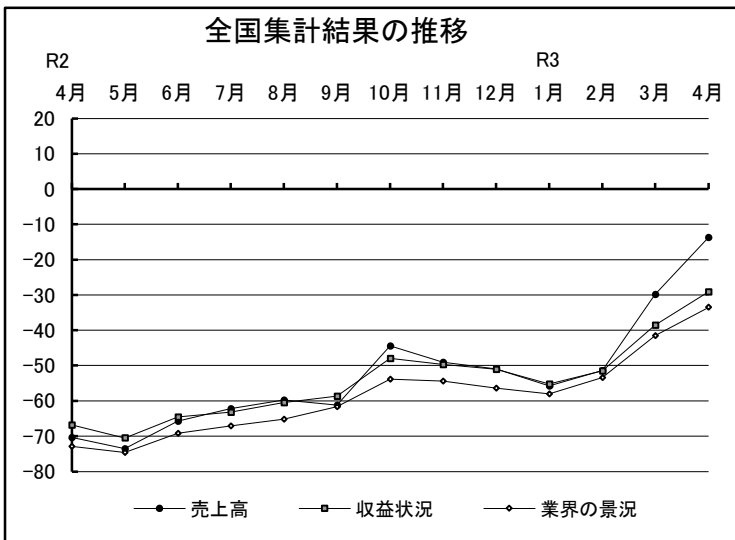
収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より15.4ポイント上昇し、-19.2ポイントとなった。全国においては、前月より9.4ポイント上昇し、-29.1ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より7.7ポイント上昇し、-28.8ポイントとなった。全国においては、前月より8.0ポイント上昇し、-33.5ポイントとなった。

全国集計結果の推移



概況

4月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中7指標が上昇、2指標が下降した。主要3指標は「売上高」が17.4ポイント上昇、「収益状況」が15.4ポイント上昇、「業界の景況」が7.7ポイント上昇となった。しかし、新型コロナウイルスの影響を強く受けている業種の企業に加え、原材料の高騰・部品の調達不安等の声も出ており、一部の都市での「緊急事態宣言」延長やコロナ第4波、第5波、ワクチン接種時期が不透明などの不安要素が多く、先行きの見通しは依然として厳しい。

業種別・指標別にみると、図表1のとおり、製造業・非製造業共に、主要3指標全ての上昇が見られた。しかし、「印刷」では主要3指標が全て3か月連続で-100ポイントとなり、「木材・木製品」は「在庫状況」が-100ポイント、「鉄鋼・金属」は主要3指標がすべて-50ポイント超と厳しい数値を示している。非製造業全体では、主要3指標が3ヶ月連続で上昇したが、「小売業(飲食業)」や「建設業」等では依然としてマイナス状態が続いている。

2月初めの緊急事態宣言解除後、県内の感染状況は一定水準に抑えられており、各業界のコメントからも、事業者個々の経営努力や感染対策の徹底などから、何とかコロナの影響を最小限にとどめようとする姿勢が感じ取れる。3ヶ月連続での改善にはなったが、これらはあくまで前年同月との比較での見方が強く、コロナ前の水準にはほど遠いと言わざるをえない。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	0.0	25.0	0.0	-25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
繊維・同製品	25.0	-50.0	-25.0	-50.0	-25.0	-25.0	0.0	-25.0	-25.0
木材・木製品	-25.0	-100.0	25.0	0.0	-50.0	0.0	0.0	-25.0	-100.0
印刷	-100.0	0.0	0.0	0.0	-100.0	0.0	-100.0	0.0	-100.0
窯業・土石	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	-25.0	-25.0	0.0
鉄鋼・金属	-50.0	-25.0	25.0	0.0	-50.0	-25.0	-50.0	-25.0	-75.0
一般機器	0.0	25.0	0.0	0.0	-25.0	0.0	25.0	0.0	-25.0
製造業	-4.0	-16.0	4.0	-12.0	-20.0	-8.0	-12.0	-16.0	-40.0
卸売業	33.3	-33.3	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	33.3
小売業	-28.6	-28.6	-14.3	0.0	-42.9	0.0		0.0	-14.3
サービス業	33.3		-33.3	-33.3	0.0	-33.3		-16.7	-33.3
建設業	-40.0		0.0	0.0	-20.0	0.0		-20.0	-40.0
運輸業	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	-25.0
その他	0.0		0.0	0.0	-50.0	-50.0		0.0	0.0
非製造業	-3.7	-30.0	-11.1	-7.4	-18.5	-11.1		-7.4	-18.5
全体	-3.8	-20.0	-3.8	-9.6	-19.2	-9.6	-12.0	-11.5	-28.8

図表2 【指標別DI値の推移】

	2年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	3年 1月	2月	3月	4月	前月比
売上高	-78.8	-75.0	-67.3	-80.8	-65.4	-67.3	-51.9	-55.8	-48.1	-50.0	-40.4	-21.2	-3.8	17.4
在庫数量	-22.9	-5.7	-22.9	-17.1	-17.1	-20.0	-22.9	-22.9	-25.7	-14.3	-8.6	-11.4	-20.0	-8.6
販売価格	-7.7	-15.4	-13.5	-7.7	-7.7	-5.8	-7.7	-11.5	-7.7	-13.5	-9.6	-3.8	-3.8	0.0
取引条件	-23.1	-26.9	-19.2	-15.4	-21.2	-23.1	-21.2	-19.2	-19.2	-15.4	-17.3	-11.5	-9.6	1.9
収益状況	-69.2	-69.2	-59.6	-71.2	-65.4	-67.3	-51.9	-53.8	-53.8	-59.6	-46.2	-34.6	-19.2	15.4
資金繰り	-53.8	-55.8	-51.9	-51.9	-48.1	-42.3	-28.8	-26.9	-26.9	-26.9	-26.9	-19.2	-9.6	9.6
設備操業度	-64.0	-72.0	-56.0	-68.0	-56.0	-52.0	-40.0	-48.0	-32.0	-36.0	-24.0	-20.0	-12.0	8.0
雇用人員	-11.5	-11.5	-19.2	-15.4	-9.6	-15.4	-9.6	-11.5	-11.5	-13.5	-11.5	-9.6	-11.5	-1.9
業界の景況	-73.1	-73.1	-65.4	-73.1	-65.4	-69.2	-57.7	-57.7	-51.9	-61.5	-50.0	-36.5	-28.8	7.7

特記事項

情報連絡員報告（令和3年4月分）

所属組合	特記事項
和洋菓子製造業	4月になり客が戻り出したが、第3次緊急事態宣言が出て再度厳しい状況になった。業界としてこのところ、原材料（砂糖、粉、油等）の値上がりが続き、今後の価格の対応に苦慮している。
あん類製造業	コロナの影響で、廃業する取引先も出てきている。菓子業界、製餡業界の高齢化によりこれを機にと考えている人も多い。
縫製業	昨年と比べ生産量が非常に少なくなっている。その中でも、品種によって2極化の減少がある。メリヤス関係は少ない中でも5～6月の受注数が確保できているが、布帛関係は5月以降受注のめどが立っていない。政府の医療用防護服等の発注が出ないと苦しい状況が続く。
網・レース・繊維粗製品製造業	コロナウイルス再拡大を受けて人流抑制の動きがあった。先月同様、昨年同時期と比べれば、受注件数は改善の兆しがある。ただ一昨年同時期と比べると売上、収益、稼働状況は悪く、相変わらず苦しい状況にある。オリンピックの開催問題、ワクチン接種時期、コロナ第4波、第5波等、不安要素は多く、依然見通しは明るくないと感じている。
一般製材業	今般の「ウッドショック」により、業界全体として在庫が確保できない状況である。この状態がいつまで続くのかわからず、当該事由につき懸念を有している。
建具製造業	新年度となり、コロナ禍拡大もあり、いっきに受注が冷え込んできている。各組合員ともに苦況の中で、明るい話題としては、新築中の鹿沼市庁舎に使用の「鹿沼組子」を組合として受注し、組合員にて製造中である。
印刷業	今年度に入ってもコロナ禍が収まる気配はまだ見えてこない中、経営環境は予断を許さない状況にあり、これ以上景気低迷が長引けば、さらなる悪化が懸念される。
石灰製造業	鉄鋼向けは、順調に出荷している。昨年と比べると増加傾向となっている。肥料関係は、北海道で雪が少なかったため、5月分の前倒しで増加、また豚熱の影響で、消石灰が増えた。建材関係は、東北方面で土質向けが増えている。全体では、増加傾向にある。
碎石製造業	令和2年度（4月～3月）の出荷量は、16,047,814トンであり、昨年同期比1.8%増で推移。
金属製品製造業	金属材料大幅値上がりの為、製品も値上げした。
金属製品製造業	・自動車部品関連、機械設備関連、プレス金型関連ともに低下（コロナ禍による売上低下、人件費増加、人手不足）
一般機械器具製造業	令和3年4月の報告は前年同月と比較し、今月も売上高等の減少傾向は継続中、収益悪化懸念もあるが、各企業の経営努力による悪化回避を行っている。操業度の低下は回避傾向である。今後の見通しについては回復傾向の企業と悪化懸念企業とがほぼ同数といったところ。組合員企業の努力により、コロナの長期にわたる影響を最小限にとどめようとする姿勢が感じ取れる。
一般機械器具製造業	自動車・建機関係は、相変わらず好況になりつつある。 また、建設業界も人手不足のため忙しい感が続いている。 介護関係においては年中人手不足で困った状態。 早く外国人の入出国が自由にできるようにならないとやがてジリ貧状態になると心配している。
各種商品卸売業	当団地組合では、引き続き新型コロナウイルスの影響を受けており、全体として売上高減少、業況悪化と厳しい状況は続いているが、組合員はそれぞれコロナ禍にしっかりと対応している。
食肉小売業	緊急事態宣言が、5月の連休明けまで東京に発令。5月の連休は、人が動かない状況が予測され、売上は減ると思われる。食肉の輸入もオーストラリア産牛肉の価格が急騰。アメリカ産牛肉も政府ガードで関税が上がり、高値で仕入が困難になっている。栃木県北の那須塩原市で豚コレラ発生があり、出荷量が減っている。
花・植木小売業	市場では春の花の入荷が徐々に減り始め、ヒマワリや紅花等の花が増え始める。後半には芍薬なども出始め、初夏の花々が市場を賑やかさせた。入荷は昨年比で110～130%増、単価は120～140%高で推移した。一昨年対比では入荷量、単価ともに95%前後での推移となった。

	来月は期待の大きな「母の日」もあるが、新型コロナの収束時期が見通せない中、さらなる花の消費の悪化が懸念される。
旅館・ホテル	（宿泊） 東京都が再度緊急事態宣言となった。市内全域のホテルの稼働率は平均 60%にも届かない状況。緊急事態宣言が 5 月末までとなり先行き不透明感が増している。 （宴会） 新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言により 100%ダウン。（飲食店） 飲食店利用はまだまだ非常に厳しい状況。第 4 波と変異株も懸念されており先行きが全く見通せない。
給食センター	売上高は、新型コロナウイルスの影響もあり、既存の売上高は前年同月より少し減少しているが、新規事業である惣菜の製造販売により、増加傾向にある。しかし、このまま新型コロナウイルスが終息しない場合は、収益・資金とも悪化していくと思われる。
総合工事業	管内では、令和元年発生した台風 19 号による河川等の災害工事がほぼ完了したことから、公共工事の早期な発注を望むところである。
内装工事業	新年度に入り内装業関係の業況は依然厳しい状況が続くものと思料されるが徐々にではあるが業績回復の兆しが見られる企業もある。早期に即効性のあるコロナ対策及びワクチン接種がいきわたることが望まれる。
一般貨物自動車運送業	5 月以降に売上減少が予測される。 コロナの影響から、主に建築関係の動きが鈍く、設備投資なども見込まれず、運送が減少する傾向がある。
貨物軽自動車運送業	法人・個人（常連・新規）に問わず、問合せ件数が昨年よりも大幅に落ちている。例年 4 月の数字は繁忙期に比べると落ちるが今年は悪すぎる。定期案件のおかげで何とか保っている状況。新規の問合せで、冷蔵、冷凍品や、危険物などの配達が多く、数件は受注までありつきたい。運べるものは、何でも運ぶくらいの『気負い』が本部にも組合員にも求められてきている。
大谷石採石業	飲食店は苦しい状況。当組合員も苦しい状況は変わらず。